

作成日 2009/5/18

改訂日 2026/6/25

安全データシート

1. 化学品および会社情報

化学品の名称	ブタン-2,3-ジオンジオキシム Butane-2,3-dione dioxime ジメチルグリオキシム
製品名	
製品コード	F-016493
SDS 整理番号	ZC19003-03
会社名称	善ケミカル株式会社
住所	東京都台東区台東 2-30-2 善ビル 3 階
電話番号	03-3839-5861
FAX 番号	03-3839-5877
緊急連絡電話番号	03-3839-5861
推奨用途	金属の配位子
製造事業者の情報	原産国: インド

2. 危険有害性の要約

GHS 分類		
物理化学的危険性		該当区分なし
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分 4
	急性毒性(経皮)	区分 3
環境に対する有害性		該当区分なし
注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については「分類対象外」、「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。		

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告

H302 飲み込むと有害
H311 皮膚に接触すると有毒

注意書き

【安全対策】

P264 取扱後は手や顔などをよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

P301+P317 飲み込んだ場合: 医療処置を受けること。
P330 口をすすぐこと。
P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
P316 すぐに救急の医療処置を受けること。
P361+P364 汚染された衣類をただちにすべて脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

P405 施錠して保管すること。

【廃棄】

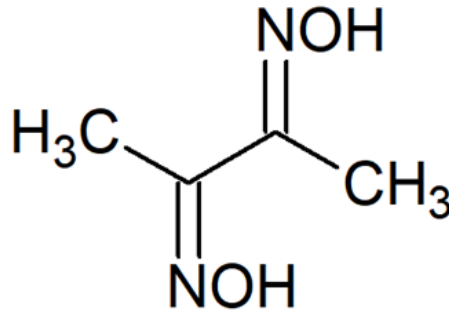
P501 内容物/容器を国/都道府県/市町村の規制に従って廃棄すること。

GHS 分類に関係しないまたは
GHS で扱われない他の危険有害性
粉じんが拡散した場合、爆発可能性のある粉じん-空気混合物を形成する可能性がある。

3. 組成および成分情報

単一物質・混合物の区別
単一物質

化学名または一般名	ブタン-2,3-ジオンジオキシム Butane-2,3-dione dioxime
慣用名または別名	2,3-ブタンジオンジオキシム N,N'-ジヒドロキシ-2,3-ブタンジイミン N,N'-ジヒドロキシブタン-2,3-ジイミン N-[3-ヒドロキシイミノブタン-2-イリデン]ヒドロキシルアミン ジアセチルジオキシム ジメチルグリオキシム ビアセチルジオキシム ブタンジオンジオキシム 2,3-Butanedione dioxime Biacetyl dioxime Butanedione dioxime DMG Diacetyl dioxime Dimethylglyoxime N,N'-Dihydroxy-2,3-butanediimine N,N'-Dihydroxybutane-2,3-diimine N-[3-Hydroxyiminobutan-2-ylidene]hydroxylamine
CAS 番号	95-45-4
分子式(分子量)	C ₄ H ₈ N ₂ O ₂ (116.12)
構造式または示性式	



成分および濃度または濃度範囲	94.0 %以上
官報公示整理番号	
化審法	(2)-541
安衛法	公表化学物質(化審法番号を準用)
GHS 分類に寄与する成分	情報なし

4. 応急措置

一般的な注意	医療処置を受けるときは医師にこの SDS を見せること。
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動すること。 窮屈な衣類は緩め、呼吸しやすい安楽な姿勢で休息させ、必要に応じて人工呼吸や酸素吸入を行うこと。 人工呼吸に際しては口対口呼吸法は避けること。 気分が悪いときは医療処置を受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類をただちにすべて脱ぐこと。 本品が付着した部位を石けんを用いて流水またはシャワーで 15 分以上洗うこと。 すぐに救急の医療処置を受けること。
眼に入った場合	汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 水で 15 分以上注意深く洗うこと。つぎに、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して、その後も洗浄を続けること。 時折 まぶたを持ち上げつつ洗浄すること。 痛みがあっても眼をこすらないこと。 医療処置を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 必要に応じて少量の牛乳または水を飲ませて胃の内容物を薄めること。 被災者に意識のない場合は口に何も与えないこと。

急性症状および遅発性症状の最も重要な徴候症状	医療処置を受けること。 眼刺激、皮膚刺激、気道刺激、消化管の刺激。長期間の皮膚接触により皮膚炎を引き起こすことがある。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	ゴム手袋、密閉ゴーグル等の保護具を着用すること。
医師に対する特別な注意事項	情報なし
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素。
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特有の危険有害性	火災、加熱により容器が爆発するおそれがあるので、その危険性に応じ、離れた距離から消火すること。 燃焼や高温により有害なヒュームを発生するおそれがある。
特有の消火方法	関係者以外は安全な場所に退去させること。 消火作業は風上の安全な地点から行き、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いること。 水を噴霧して、容器および周辺を冷却すること。 周辺火災の際は危険でなければ火災区域から容器を移動すること。 容器が熱にさらされているときは移動させないこと。 安全に対処できるならば着火源や、火災を増大させるおそれのあるものを取り除くこと。 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却すること。 消火後の残骸や消火に用いた消火剤などは河川や排水溝などに流れ込まないように回収し、関係法規に従って廃棄すること。
消火活動を行う者の特別な保護具および予防措置	消火作業の際は適切な空気呼吸器、自給式呼吸器(陽圧式)、耐熱性防護服を着用すること。 放水などにより生じた、環境に影響を及ぼす物質の流出を防ぐこと。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置	個人用保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用すること。 漏洩物に触れたりその中を歩いたりしないこと。眼、皮膚への接触や、粉じん、ガス、ミスト、蒸気などの吸入も避けること。 粉じんの発生を避けること。 すべての着火源を取り除くこと。 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして隔離し、関係者以外の立入りを禁止すること。 風下の人を退避させること。 十分に換気を行うこと。 低地から離れること。 漏出場所の風上から作業すること。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。製品が土壌を汚染したり、河川や排水路などに流入しないように注意すること。
回収・中和	粉じんの発生に注意しながら掃き集めてすくい取り/吸引し、空容器に回収すること。 付着物、回収物などは関係法規に基づき速やかに処分すること。
封じ込めおよび浄化の方法および機材	危険でなければ漏れを止めること。
二次災害の防止策	すべての発火源、着火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。着火した場合に備えて、消火用機材を準備すること。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。
7. 取扱いおよび保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	『8.ばく露防止および保護措置』に記載の設備対策を行い、適切な保護具を着用し、換気の良い場所で、風上から作業すること。 労働安全衛生法などの関連法規に準じて作業すること。

局所排気・全体換気	『8.ばく露防止および保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行い、局所排気内で粉じんやエアロゾルが発生しないよう注意して取り扱うこと。
安全取扱注意事項	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 作業員は化学品の取扱いについての適切な訓練を受けていること。 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに粉じん/蒸気を発生させないこと。 粉じんが拡散した場合、爆発可能性のある粉じん-空気混合物を形成する可能性がある。 できれば密閉系で取扱うこと。 万一 漏れ出たときのために処理剤、処理装置などを準備しておくこと。 容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える、または引きずるなどの粗暴な取扱いをしないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止すること。炎や高温のものから遠ざけること。 静電気対策を行うこと。 万が一火災が発生したときのために適切な消火設備/消火剤を準備しておくこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 汚染された衣類を再利用する場合は洗濯すること。 空の容器でも内部に製品が残存している場合もあるので取扱いには注意すること。 使用していないときは容器を密閉しておくこと。 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止すること。 環境への放出を避けること。
接触回避	適切な保護具を着用すること。 粉じん、ガス、ミスト、蒸気、スプレーなどを吸入しないこと。 皮膚や衣類との接触を避けること。 眼に入れないこと。 口に入れないこと。
衛生対策	この製品と身体とのあらゆる接触を避けること。 この製品を使用するときに飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後は手や顔など、露出した部分をよく洗い、うがいをする。 作業着や保護具は休憩所に持ち込まないこと。
保管	
技術的対策	特別に技術的対策は必要としない。
混触危険物質	『10.安定性および反応性』を参照。
安全な保管条件	容器を密閉し、正しい向きに立てて保管すること。 乾燥していて換気の良い冷暗所で保管すること。 直射日光や火気、熱、スパークを避け、また混触危険物質、食料などから離して保管すること。 容器を物理的な衝撃から保護する措置を講ずること。 製品の漏れがないか定期的に確認をすること。 万一 漏出したときに備えて必要な処理剤、処理装置などを準備しておくこと。 火災に備えて保管場所には消火剤などを備えておくこと。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	情報なし
8. ばく露防止および保護措置	
管理濃度	設定されていない
許容濃度等	
日本産衛学会	設定されていない（2009 年版）
ACGIH	設定されていない（2009 年版）
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置し、その位置を明瞭に表示すること。 防爆型の電気・換気・照明機器、装置、設備を使用すること。 静電気放電や帯電に対する予防措置を講ずること。

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
 ばく露を防止するため、装置、機器の密閉化あるいは局所排気装置を設置すること。
 随所に排気装置を付けて、蒸気などが滞留しないようにすること。
 製品に作業者が直接接触したり、ばく露したりしないような配慮をすること。
 非常事態に備えて避難動線を確保しておくこと。

保護具 一般

保護具は使用前にその状態を毎回確認し、傷み・破れその他異常などのないものを使用すること。

呼吸用保護具 手の保護具

必要な保護具は、関連規格に適合したものを選定すること。
 状況に応じて空気呼吸器、防毒マスク、簡易防毒マスクなど。
 保護手袋(ネオプレンゴム、ブチルゴムなどで浸透性のないもの)。使用後に脱ぐときはその外側が皮膚に直に触れないように注意すること。

眼、顔面の保護具 皮膚および身体の保護具

保護眼鏡、ゴーグルなど。
 不浸透性の保護衣、長靴など。現場にて取扱う量に応じた適切な保護具を選定すること。

衛生対策

適切な労働衛生および安全基準に従って取り扱うこと。
 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
 取扱い後は手や顔など、露出した部分をよく洗い、うがいをする事。
 保護具を脱ぐときは、保護具に付着した製品に触れないよう十分に注意すること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9. 物理的および化学的性質

物理状態

固体

形状

結晶 ～ 粉末

色

白色 ～ 灰色を帯びた白色

臭い

無臭 ～ 特異臭

臭いの閾値

データなし

融点/凝固点

239 °C (融点)

沸点または初留点および沸点範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界および爆発上限界/

データなし

可燃限界

引火点

データなし

自然発火点

データなし

分解温度

240 °C

pH

データなし

動粘性率

データなし

溶解度

水

微溶 (0.6 g/L)

その他の溶剤

可溶: トルエン、エーテル類、アルコール類、アセトン、ピリジン
 難溶: クロロホルム

n-オクタノール/水分配係数 (log 値)

-2.16 ～ -0.29

蒸気圧

データなし

密度および/または相対密度

500 kg/m³

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

10. 安定性および反応性

反応性

通常の状態では安定。

化学的安定性

情報なし

危険有害反応可能性	特別な反応性は報告されていないが、可燃性なので強熱により燃焼、分解することがある。
避けるべき条件	190℃を超えると分解の危険が高まる。
混触危険物質	高温(65℃以上)、強熱、裸火の接触、強い衝撃や摩擦、混触危険物質との接触。
危険有害な分解生成物	強酸、酸化剤、還元剤 強熱、燃焼により二酸化炭素の他、有毒の一酸化炭素、窒素酸化物を生成する可能性がある。
11. 有害性情報	
急性毒性 経口	LDL0(ラット-経口): 250 mg/kg (RTECS)。 これから LD50 > 300 mg/kg と推察される。
経皮	LD50(ウサギ-経皮): 478 mg/kg
吸入	情報なし
皮膚腐食性/刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性または皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし ハムスター胚細胞を用いた細胞形質転換試験で、100 μ g/L 付近で発がん性を示唆する細胞変化が観察されたとの情報がある。
発がん性	本品は IARC および NTP のリストに記載されていない。
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	情報なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報なし
誤えん有害性	情報なし
12. 環境影響情報	
生態毒性	
魚類	情報なし
甲殻類	情報なし
藻類	情報なし
水生環境有害性 短期(急性)	情報なし
水生環境有害性 長期(慢性)	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	
n-オクタノール・水分配係数	-2.16 ~ -0.29
土壌吸着係数(Koc)	情報なし
ヘンリー定数	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 焼却処理をする場合は適当な可燃性溶剤に溶解または混合し、アフターバーナーおよびスクラバーを備えた設備で焼却すること。 廃棄に際しては適切な保護具を着用すること。 廃棄の前に可能な限り無害化、安定化および中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。 自らによる廃棄が難しい場合、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。
汚染容器および包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、またはリサイクルに関する情報	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	2926
国連輸送名	その他の可燃性物質(有機物)(固体)(毒性のもの) FLAMMABLE SOLID, TOXIC, ORGANIC, N.O.S.
国連分類	CLASS 4.1
副次危険性等級	CLASS 6.1
容器等級	III
国内規制	
陸上規制情報	非該当
海上規制情報	船舶安全法の規制に従う。
航空規制情報	航空法の規制に従う。
輸送または輸送手段に関する 特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。 必要に応じて緩衝材なども用いて、輸送時の製品への衝撃が最小限になるようにつとめること。 重量物を上積みしないこと。 万が一事故が発生した場合の処理剤なども携行すること。 事前に通行ルート of 十分な確認をし、輸送計画をしっかりと立て、無理のない安全な輸送をこころがけること。 運搬中に製品が著しく漏れるなど災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずるとともに、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
その他の注意	情報なし
緊急時応急措置指針番号	134

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	非該当
労働安全衛生法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
水質汚濁防止法	生活環境項目(施行令第3条第1項) 「生物化学的酸素要求量(BOD)および科学的酸素要求量(COD)」排水量として、160 mg/L 以下(日間平均 120 mg/L 以下) 「窒素含有量」排水量として、120 mg/L 以下(日間平均 60 mg/L 以下)
航空法	可燃性物質類・可燃性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
船舶安全法	可燃性物質類・可燃性物質(危規則第2、3条危険物告示別表第1)
外国為替及び外国貿易法	輸出許可貨物・補完品目(キャッチオール規制)(法第48条第1項、輸出令第1条別表第1の16の項(2))

16. その他の情報

主な参考文献	安全データシート "ジメチルグリオキシム", 昭和化学(2018) 安全データシート "ジメチルグリオキシム" 米山薬品(2005) 安全データシート "ジメチルグリオキシム" 林純薬(2015)
--------	--

記載内容の取扱いについて

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

改訂履歴	2009/5/18	作成
	2019/5/27	改訂(GHS 国連文書と JIS に対応)
	2026/6/25	おもにサプライヤーの最新 SDS を基に内容を更新(とくに、国連番号と

その関連部分)